平成 22 年度 # 事務事業マネジメントシート

作成日 平成 22 年 7 月 21 日作成

事務事業名	コード 13500	国際姉妹都市交流事業		
政策名	総合計画体系 0 4	住民参画を基本とした協働のまち	所属部 企画財政部	所属課 地域振興課
施策名	0 1	コミュニティ活動の推進	所属係	課長名 工藤昌美
基本事業名	0 3	国際化社会の形成		電話番号 0883-72-7649 (内線) 283
予算科目	会計 1 款 2 項 1 目 8	企画費	法令根拠	三好市補助金交付規則
事業期間	□ 単年度のみ ☑ 単年度繰返 (開始年度 昭和54 年度 ～)		□ 期間限定複数年度→全体計画の投入量を記入 (年度 ～ 年度)	

事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】アメリカ合衆国ワシントン州タクイラ市、オレゴン州ザ・ダルズ市それぞれとの姉妹都市関係の継続と、派遣・受入等の交流を通じて、市民の国際的視野の育成を図る。派遣と受入に関しては、三好市国際交流協会と市が協働で実施している。21年度はタクイラ市へ27名を派遣し、ザ・ダルズ市から11名、タクイラ市から20名の受け入れを行った。
【業務の内容】■派遣業務①参加者募集、②受入先との日程調整、③派遣団員の選考、④事前研修、⑤派遣先への随行、⑥事後研修会の開催、⑦広報紙への結果掲載■受入業務①派遣元との日程調整、②ホストファミリーの募集、③受入内容の検討、④受入への随行、⑤交流会の実施
【事業費の内訳】派遣補助金:2080千円、派遣旅費:864千円、派遣その他経費:50千円、受入需用費:762千円、受入使用料:1381千円、受入その他経費:288千円

全体計画(期間限定複数年度のみ) (単位;千円)

区分		項目	金額
総投入量	事業費 財源内訳	国庫支出金	
		都道府県支出金	
		地方債	
		その他	
		一般財源	
		事業費計 (A)	0
	人件費	正規職員従事人数	
		延べ業務時間	
		人件費計 (B)	0
		トータルコスト(A)+(B)	0

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

21年度実績(21年度に行った主な活動)
タクイラ市交流親善団派遣事業
ザ・ダルズ市、タクイラ市親善団受け入れ事業

22年度計画(22年度に計画している主な活動)
ザ・ダルズ市交流親善団派遣事業(11月)
ザ・ダルズ市親善団受け入れ事業(8月)

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)数字は記入しない

	名称	単位
ア	派遣人数	人
イ	受け入れ人数	人
ウ		

② 対象(誰、何を対象にしているのか)＊人や自然資源等

全市民
【補助金の交付先 】
三好市国際交流協会

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない

	名称	単位
ア	人口	人
イ		
ウ		

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

異文化に触れる

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)数字は記入しない

	名称	単位
ア	受入事業への参加人数(延べ)	人
イ	派遣事業への参加人数(延べ)	人
ウ		

④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)

国際感覚を養えるようにする。

⑧上位成果指標(結果の達成度を表す指標)数字は記入しない

	名称	単位
ア	国際姉妹都市交流三好市訪問団員受け入れ家庭数	戸
イ	新規受け入れ家庭数	戸
ウ	この1年間で外国人との交流を行ったと答えた市民の割合	%

(2) 総事業費・指標等の推移

区分			単位	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(見込)	23年度(成行予測)	24年度(成行予測)	25 年度(成行予測)
投入量	事業費 財源内訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		一般財源	千円	1,945	2,693	2,501	3,317	4,180	3,180	4,180
		事業費計 (A)	千円	1,945	2,693	2,501	3,317	4,180	3,180	4,180
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1	1
		延べ業務時間	時間	390	390	390	390	390	390	390
		人件費計 (B)	千円	1,482	1,482	1,482	1,482	1,482	1,482	1,482
		トータルコスト(A)+(B)	千円	3,427	4,175	3,983	4,799	5,662	4,662	5,662
活動指標		ア	人	17	23	27	20	30	30	30
		イ	人	9	7	31	5	40	10	40
		ウ								
対象指標		ア	人	33,052	32,393	31,758	31,200	30,415	29,832	29,249
		イ								
		ウ								
成果指標		ア	人	367	374	385	410	450	460	500
		イ	人	611	634	661	681	711	741	771
		ウ								
上位成果指標		ア	戸	11	13	15	6	7	7	7
		イ	戸	5	3	7	3	5	5	5
		ウ	%	11.15	11.15	14.26	14.50	14.50	14.50	14.50

事務事業名	国際姉妹都市交流事業	所属部	企画財政部	所属課	地域振興課

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

異文化に触れることによる国際的視野の拡大と、相互理解を目的に、タクイラ市と井川町は昭和54年、ザ・ダルズ市と池田町は平成15年に姉妹都市提携を行った。それに伴い、国際交流事業も開始された。

② 事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？

国際社会に関心を持つ人が増え、合併前は学生派遣希望者が年々増加していた。しかし、合併以後は減少傾向にある。これは、募集対象の中学校が6校に増加したことで、同じ中学校の友人と一緒に参加できなくなる可能性を考え、申し込みを躊躇していることと、部活動との兼ね合いなどが原因であると推測できる。

外国人観光客が増加し、本事業以外でも市民が市内で異文化に触れる機会が増加していると考えられる。

③ この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？

今のところ事業に対する意見を聞いたことはない。

2　評価の部（SEE）＊原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市（町）の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 結びついている ⇒【理由】 国際姉妹都市と交流することによって異文化と触れ合う機会が増え、それによって国際理解が深まることは、市民文化の向上に繋がる。国際的視野の拡大と相互理解が事業の目的であるので、意図する結果に結びつくものである。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市（町）が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 妥当である ⇒【理由】 国際交流を推進し、国際性豊かな人材を育成することは、教育において重要であると考える。そのような市民が増えることにより、地域国際化が図れるので、公共の関与は妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 適切である ⇒【理由】 対象としては全市民であるため限定・追加する必要はない。
有効性評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☑ 向上余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 市民で構成された、三好市国際交流協会の活躍に期待が寄せられる。さらに連携を深めて行政がサポートしていくことで、市民主導型の姉妹都市交流を実現させる余地はある。派遣・受入に参加しない市民が派遣・受入へ参加するようになれば成果は向上する。また、異文化に触れるという意図から相互の派遣、受け入れ事業だけではなく、それ以外での国際交流の方法を検討する必要がある。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 影響有 ⇒【その内容】 国際姉妹都市との交流やホームステイを体験することは、学生にとって、将来の方向性を見出す貴重な体験となるうえ、市民ニーズや国際交流団体へのバックアップの面からも、廃止・休止することは好ましくない。 姉妹都市との交流機会が減る。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには，この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある （具体的な手段，事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 他に類似事業がない。 ☐ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 削減余地がない ⇒【理由】 姉妹都市交流事業については、三好市国際交流協会などの市民ボランティアが中心となって実施されており、補助金以外の収入源がない。また、派遣・受入ともにぎりぎりの額で実施しているため、削減の余地はなく、旧井川町がタクイラ市を受け入れしていた時のように40名以上の多人数が来日するとなった場合は、補助金の増額をせざるを得ない。
	⑧ 人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 削減余地がない ⇒【理由】 受入事業での学校・体験施設へのアポイントメント、また、派遣事業における業者選考・契約の締結、団員選考などの事務、事前研修・事後研修など、諸々の事務処理は全て行政側が行っている。三好市国際交流協会が中心で活動しているとは言え、それぞれ仕事や家業を持っている一般市民のボランティアなので、人件費の削減余地はない。 交流協会を再編して間もないので行政のサポートが必要であるが、交流協会組織の確立と共に行政側の業務時間は削減される見込みである。
公平性評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部（3枚目シート）に反映 ☑ 公平・公正である ⇒【理由】 市民全体を対象とした事業であるため公平である。

事務事業名	国際姉妹都市交流事業	所属部	企画財政部	所属課	地域振興課

3　評価結果の総括と今後の方向性（次年度計画と予算への反映）（PLAN）

(1) 1次評価者としての評価結果

① 目的妥当性	☑ 適切	☐ 見直し余地あり
② 有効性	☐ 適切	☑ 見直し余地あり
③ 効率性	☑ 適切	☐ 見直し余地あり
④ 公平性	☑ 適切	☐ 見直し余地あり

(2) 全体総括（振り返り、反省点）

姉妹都市交流事業は、三好市国際交流協会（旧池田町）とタクイラ会（旧井川町）から委員数名ずつを選出して設立した、「三好市姉妹都市交流委員会」が中心となって実施していた。2団体が協力し合える体制づくりが必要であることから新たに「三好市国際交流協会」へと組織を統合し官民協働のまちづくりを進めていくうえで大きな期待が寄せられている。また、本事業が三好市全体に浸透するまで至っていないので、派遣事業に参加する団員の拡充やホストファミリーの確保など、課題は山積している。

(3) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可

☐ 廃止　☐ 休止　☐ 目的再設定　☐ 事業統廃合・連携　☑ 事業のやり方改善（有効性改善）
☐ 事業のやり方改善（効率性改善）　☐ 事業のやり方改善（公平性改善）
☐ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

派遣事業においては、旅行業者選定や選考会等、行政の担う部分が多いが、受入事業に関しては、国際交流協会が中心となって進めることが望ましい。三好市全体へ事業を拡大し、より多くの市民に異文化交流を提供するためにも主体的に事業を進める必要がある。

(4) 改革・改善による期待成果（廃止・休止の場合は記入不要）

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上		○	
	維持			×
	低下		×	×

(5) 改革，改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策

ザ・ダルズ市は、旧池田町の民間団体が行っていた交流を起源とする姉妹都市であり、タクイラ市は、旧井川町が政策として交流を進めてきた姉妹都市である。それぞれ交流スタイルが違い、受け入れ側となる団体（三好市国際交流協会、タクイラ会）も、成り立ちが大きく違っていた。この問題を解決するため2つの団体を統合し新たに「三好市国際交流協会」を設立した。今後も、三好市、タクイラ市、ザ・ダルズ市の3市交流をより良いものとするためにも、三好市国際交流協会をさらに発展させていく必要がある。